

平成 30 年 6 月 29 日現在

機関番号：34524

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380816

研究課題名(和文) 保育士のキャリア形成に資する特別支援保育士(仮称)モデルの構築に関する研究

研究課題名(英文) Education Model for Career Development of Nursery School Teachers

研究代表者

田中 博一 (TANAKA, Hirokazu)

兵庫大学・生涯福祉学部・教授

研究者番号：20149529

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：保育士のキャリア形成における専門性の高度化とインクルーシブ教育・保育の潮流における人材確保のために、医学及び介護の知識と技術を修得した「仮称」特別支援保育士(医療保育士を含む)の養成体系の構築と実践が研究目的である。介護福祉士の高度化養成モデルとリンクし、フィンランドのラヒホイタヤの資格・養成モデルを参考に、平成28(2016)年より、兵庫大学生涯福祉学部こども福祉学科に特別支援保育士の課程を設け、養成を開始した。これは、4年制大学の保育士養成課程における特別支援保育のできる養成課程の構築とその実践のモデル化である。さらに、フィンランドのような大学院修士課程における高度化が今後の課題である。

研究成果の概要(英文)：The aim of the present study was to develop and implement training systems for special support nursery school teachers (provisional title), equipped with knowledge and skills in medicine and nursing care, and thereby to promote increased specialization in the career development of nursery school teachers and to secure human resources conversant with inclusive education and childcare. Linking with existing advanced care worker training models in Japan and with reference to the Finnish model of certification and training for practical nurses, in 2016 we launched a new training program for special support nursery teachers in Hyogo University. This represents a model for the development and implementation, within a four-year university course for nursery school teachers, of a training program to produce human resources able to provide special support. An option to be considered going forward is advanced study in the form of a master's degree program similar to the Finnish model.

研究分野：社会福祉学

キーワード：保育士 キャリア形成 特別支援保育 インクルーシブ教育・保育 ラヒホイタヤ フィンランド 介護福祉士 専門職

1. 研究開始当初の背景

(1) インクルーシブ保育の潮流と特別支援保育士

我が国は、2006(平成10)年に国連が採択した「障害者の権利条約」を2014(平成26年)に批准し、条約第24条(教育)のインクルーシブな教育と生涯学習を確保しなければならなくなった。国は1974(昭和49)年から障害児保育事業を開始したが、とりわけ就学前(小学校就学前)教育のインクルージョンの進展は十分とは言えない。その理由のひとつにインクルーシブ教育(保育)の専門性を修得した教員不足と、その養成が不十分であると考えられる。

(2) 保育士のキャリア形成の必要性和特別支援保育

保育所の待機児童問題が社会問題化し、保育所不足及び保育の人材不足対策が講じられている。とりわけ、保育士養成施設卒業者の半数が保育所に就労せず、また保育士資格保持者のハローワーク再就職において半数が保育士への就労を望まない。保育士不足は低賃金と低い社会的評価のために魅力のある職場となっていないからである。

2. 研究の目的

(1) 特別支援学校や特別学級の設置が増加しているが、一方でインクルーシブ教育(保育)の進展がこれから課題である。フィンランドはSpecial Needs Education(SNE)をインクルーシブ教育の拡充で進めており、特別支援学校や特別支援学級からインクルーシブ教育(保育)への転換が進んでいる。その担い手であるSNEの教員(保育者)の養成から知見を得て、特別支援保育士の知識と技術を修得する体系的な養成課程の構築が目的である。

(2) 保育の人材確保は、保育士の処遇改善がなされ、さらに、社会的評価の向上のための専門性の向上によるキャリアラダーの構築が必要である。それは、中間職種(専門職)

の創出により、新規参入を促進し、離職率を下げ、定着率の向上するためのものである。さらに、インクルーシブ教育(保育)の潮流において、保育士の高度化としての特別支援保育士を位置づける。保育士の専門性高度化のために、4年制大学における特別支援保育士を、コンピテンスに基づく養成を構築しそれを実践する。

3. 研究の方法

(1) 介護福祉士の養成教育の高度化との比較

特別支援保育士は教育・保育の知識と技術に加え、医学的ケアの知識・技術の修得が想定される。フィンランドのラヒホイタヤの養成課程では、介護士と保育士の養成内容は、2年間は同じカリキュラムであり、3年目にそれぞれの専門領域を学んで資格を取得する仕組みになっており、フィンランドモデルを研究することによって日本における養成の方向性を検証する。また、我が国の医療とケアの専門職である介護福祉士の養成課程との比較検討及びその高度化モデルから知見を得て特別支援保育士の養成モジュール構築を試みる。

(2) 海外の特別支援教育・保育および医療と連携する保育士の調査

フィンランドのラヒホイタヤは3年間(3600時間)の保育士養成課程修了後に就労し、その後のキャリア形成としての継続教育がある。その在り方と実態を調査し、日本の保育士の継続教育を4年制大学及び大学院課程における特別支援保育士養成の方向性を示す。また、保育士のキャリア形成では、アメリカ合衆国のChild Life Specialist(CLS)のモデルも方向性のひとつである。重い心臓病やガンなどの長期入院加療の要する子どもの医療には保育は欠かせない。CLS養成のモジュールは医学的根拠に基づき、子どもが医療を受けるためのかわり方であるコピー

ング力の形成方法を研究する。

4. 研究成果

(1) フィンランドの就学前教育(保育)とインクルーシブ教育の進展把握

フィンランドの義務教育におけるインクルーシブ教育の進展には著しいものがある。特別支援学校は1985年に360校あったが、2014年には140校に激減し、障害のある子どもは普通学級(Regular Class)で支援を受けながら普通児と同じカリキュラムで学んでいる。普通学級では特別支援というとらえ方ではなく、支援は誰もが必要とするものであり個別のニードというとらえ方で支援する。とりわけ注目すべきものは、Individual Education Plan(IEP 個別教育計画)が基本となって教育が行われ、障害者だけでなくすべての子どもに実施されている。近年、大学教育においてもこのplanが運用されている。国際学習到達度評価(PISA)でフィンランドが高い評価を受けているのはこのIEPが大きな要因と指摘している。普通学級で学ぶ子供の約22%が特別な支援(この場合週1~2回程度の支援を含む)を受けているように、インクルーシブ教育の進展が見える。

(2) フィンランドのエシコウル(日本の幼稚園)とデイケアセンターにおける特別支援教育免許・資格の仕組みを明らかにした

フィンランドの幼稚園は小学校に付属するエシコウルと称する。フィンランドの義務教育は7歳から始まり、日本より1歳遅く就学する。子どもは6歳になればこのエシコウルに入園して、1年間の就学準備教育を受ける。しかし、必ずしも小学校付属のエシコウルとは限らず、独立した保育所機能を持つデイケアセンターで教育を受けることも可能である。エシコウルの教員は大学で教育学の180単位を取得した学士号の学位が必要である。デイケアセンターの保育士は教員免許もしくはラヒホイタヤの保育士資格が必要であり、加えて、特別支援教育に従事するには教

員免許に加え教育学修士号の学位が必要であり、大学院で特別支援関連の科目の履修を含め120単位を取得しなければならない。その養成課程は高い専門性を求めている。また、保育士(この場合ラヒホイタヤ)が特別支援教育に従事するには大学で教員免許を取得し、さらに教育学修士課程で特別支援教育を学ぶことになる。また修士号があり、2年以上の学校での教員経験がある場合には大学院で1年間に60単位を取得すれば特別支援教育教員免許が取得できる。通学は週1回又は1か月に1回の授業もあり、仕事をしながら免許取得できる。フィンランドは職務と学位と資格が明確になっており、特別支援教育の職務と資格は修士の学位を就労条件にしている。European Qualifications Framework(EQF)の上から二番目に高いレベル7に位置づけられ、その社会的評価は高い。

(3) 介護福祉士のコンピテンスに基づく養成モデルと養成教育の統合化の方向を示した。日本介護福祉士養成施設協会は、介護福祉士の高度化モデルとして仮称管理介護福祉士の養成モデルを提唱している。介護福祉士の社会的評価の向上のために、専門性の高度化を4年制の大学もしくは2019年開設予定の専門職業大学における養成を想定し、コンピテンス修得に基づくカリキュラムを作成し、それを修得するためにテーマ別のPBLで教育する内容を提示している。特別支援保育士の養成にコンピテンスに基づく養成の必要性を認識し、また、介護福祉士のカリキュラムとのリンク(共通部分)があり、相互のキャリア形成に資するものと思われる。さらに、国は、保育士、介護福祉士そして准看護師の養成課程における共通部分の統合を検討中であり、今後の資格制度のあり方にも当研究は寄与するものと考えられる。

(4) Child Life Specialist(CLS)のスキル形成の在り方が理解できた。

1950年代のアメリカにおいて、病院に入院す

る子どもと家族支援のプログラムが考えられ、子どもが主体的に医療を受けられる実践が行われてきた。1982年に Child Life Council が創設され、CLS のアカデミックプログラムの認証を行い、資格制度が発足した。カリキュラムは大きく乳児・幼児・若年者・家族のケアと教育そしてサービスの改善の3分野から構成されている。

CLS の課程は通常は大学院の修士課程に設置しているが、Council が認証すれば学部で設置できる。カリキュラムの内容は Council がガイドラインを設定し、各教育・養成機関がそれに則してプログラムを作り Council の認証を受ける。カリフォルニア州のミルズカレッジは教育学の修士課程で CLS を養成し、Council の定める専門職の責任、アセスメント力、介入力について150問の修了試験を大学で実施して合否を決定する。2012年のCLSのマネジメントクラスは平均年齢が44歳、修士課程の取得者60%であり、経験と修士の学位取得者となっている。日本で実施するにはインターネットの活用による動画配信でも可能であるがすべて英語で講義が行われるので、国内での養成は語学の課題がある。しかし、CLSのスキルではコーピングが重要であり、特別支援保育士の育成において病気や障害のある子どもへの対応力の形成過程は活用できることが分かった。

(5) 日本の医療保育士と保育士のキャリアパスの連携の可能性

平成14(2002)年度から医療保険の診療報酬「小児入院医療医管理料」に保育士加算が導入され、医療チームの一員として保育士の役割りが認識された。医療保育は「医療を要する子どもとその家族を対象として、子どもを医療の主体として捉え、専門的な保育を通して、保人と家族のQOLの向上を目指すことを目的」とし、所定の研修修了者に医療保育専門士として認定する制度である。外来保育、病棟保育、病児保育、障害児保育の領域(職

域)があり、保育の環境構成、生活援助、遊びの提供、学習支援、心理的サポートのスキルがある。全体を保育過程として、情報の把握、アセスメント、保育計画、記録の職務がある。とりわけ、特別ニーズのある子ども、隔離されている子どもやNICUにいる医療度や緊張度の高い環境においても保育士の遊びによる緊張緩和が期待でき、保育士の役割が期待できる。医療保育専門士になるには保育士有資格者が病院での勤務が1年以上あり、6日間の研修を受けた後、事例研究論文で認定される。医学的知識の修得と症例別保育の実践が特徴で、今後、病児・病後児保育の人材として、各保育所に有資格者がいることが望まれる。

(6) 兵庫大学における特別支援保育士養成の実践と改善の必要性

当研究の知見をもとに、平成28年度(2016月)より兵庫大学生涯福祉学部こども福祉学科において兵庫大学特別支援保育士の名称のパイロットプラン的内容で養成を開始した。

新たに追加した科目は「こころとからだのしくみ」4単位(介護福祉士養成と共通部分)、「発達と疾病・障害」4単位、「発達障害児への支援」2単位、「こども病院実習(2週間)」2単位の合計12単位の履修が必要である。平成30年1月(2018)に行った履修者26名(学生)のアンケート調査では、「障害の理解」と「学習障害児の支援ができる」が高得点で、「専門用語の理解」、「個別支援計画を作成する」、「知的障害児のアセスメントができる」の項目が低得点であった。

スキルの形成に課題があり、保育士、介護福祉士、特別支援教諭、CLS、医療保育士のスキル形成を精査し、養成のパイロットプランの改善が必要である。

5. 主な発表論文等 雑誌論文

田中博一、介護人材施策と介護の高度専門

職教育、査読無、兵庫大学『兵庫大学論集』
第23号、2018、161-174

田中博一、介護職の人材確保と専門性の高
度化、査読無、第19号、2017、3-8

田中博一、介護専門職への途<(仮称)管
理介護福祉士>構想、地域ケアリング、査読
無、Vol.19 No.11、2016、18-24

Hirokazu Tanaka, Certified Care Workers
in Japan :Issues and Prospects, Hyogo
University Journal, no refereeing, No.20,
2015, 135-141

田中博一、中期展望とグランドデザイン、
地域ケアリング、査読無、Vol.17 No.1、2015、
学会発表

田中博一、フィンランドの就学前特別支援
教育・保育(SNE)と教員・保育者養成、文科
省科学研究費助成事業報告会、2018、明石市
生涯学習センター

杉山貴要江、「兵庫大学特別支援保育士」
養成の試み、文科省科学研究費助成事業報告
会、2018、明石市生涯学習センター

田中博一、新たな介護政策と人材確保、第
34回医療・福祉フォーラム第2部シンポジウ
ム、2016、日本赤十字社

田中博一、福祉の専門性を高めるための教
育と人間理解、日本ソーシャルワーカー協会
社会福祉公開セミナー基調講演、2016、文教
学院大学本郷キャンパス

杉山貴要江、他、医療機関勤務の保育士の
実態とその課題、全国保育士養成協議会第
54回研究大会、ロイトン札幌

図書

田中博一 他、法律文化社、人間の尊厳と
自立・社会の理解、2014、260

田中博一、他、介護福祉士のグランドデザ
イン、中央法規出版 2014 226

杉山貴要江、保育士の専門性と児童家庭福
祉 白地社、2014、210

6 研究組織

(1) 研究代表者

田中博一(TANAKA, Hirokazu)

兵庫大学・生涯福祉学部・教授

研究者番号 20149529

(2) 研究分担者

杉山貴要江(SOMAYAMA, Kiyoe)

兵庫大学・生涯福祉学部・教授

研究者番号 26380816

(3) 研究協力者

KINOS, Sirppa